

みんなであらう、環境のこと。

環境のこと。

お問い合わせ／市環境衛生課環境保全係 ☎31-0933



「環境」って言うても、なんか他人事のように感じるね。

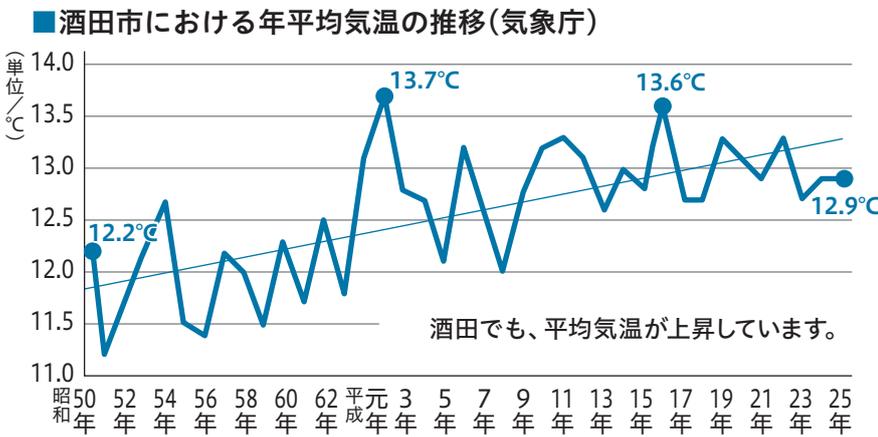


「環境を守る」ってよく言うけど、何から始めたらいいんだろう？

酒田の豊かな環境は、僕たちにも人間にも恵みと潤いのある生活を与えてくれているよね。だけど、さまざまな環境問題が起こっているのも現実なんだ。

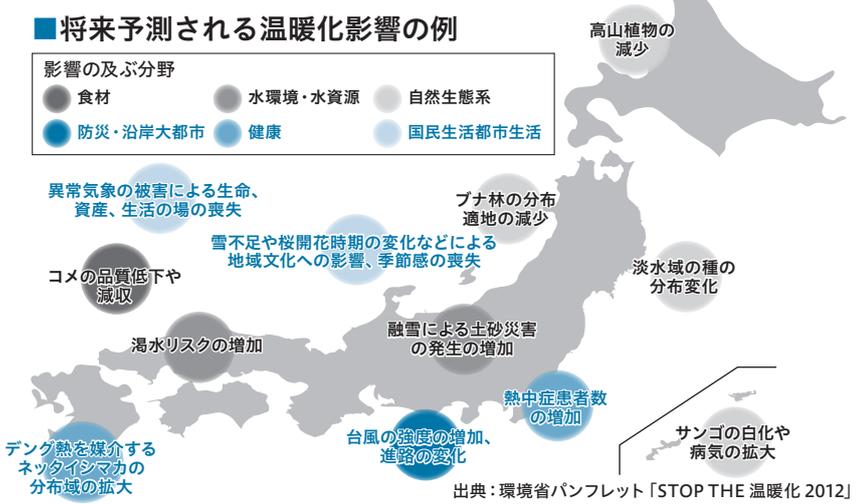


ワッシーくん
(鳥海イヌワシみらい館キャラクター)



● 温暖化は人間のせい？
 空気中の二酸化炭素には、太陽から受け取った熱を蓄える性質があります。その濃度が増加し地球の温暖化が進んでいます。石炭や石油などの燃料を大量に使用することで二酸化炭素は発生することから、温暖化の原因が人間の活動にある可能性が極めて高いといことが、近年明らかになりました。

身近に迫る地球温暖化



● 生活に影響する地球温暖化
 温暖化や寒冷化など、気候変動はかつても存在しましたが、現在進行している温暖化は、その速度にも問題があります。かつては100年当たりで平均気温が0.1度程度変化するものでしたが、現在はそれをはるかに上回る速度で温暖化が進行しています。そうすると、植物や動物、そして私たち人間の生活にもさまざまな影響が出るようになります。

私たちの生存に不可欠な生態系

近年、かつてないほどの勢いで生物の絶滅が進んでいます。その原因は、過剰な開発や里山などの利用の衰退、外来種、気候変動などです。

私たちが生きていくために必要な水や空気、食料などは、多種多様な生物の息づく自然によって生み出されていますが、生態系のバランスが崩れることで、将来、その供給に支障が出ると危惧されています。

インタビュー

※環境省猛禽類保護センター自然保護専門員

※鳥海山周辺に生息するイヌワシを中心とした猛禽類の研究および普及啓発活動の拠点として、八幡地域の草津地区に平成12年に設立された施設。猛禽類とは、タカ・フクロウ・ハヤブサの仲間の総称。

長船裕紀氏

イヌワシは環境のバロメーター

鳥海山には、希少猛禽類のイヌワシが生息していますが、生息範囲が広大なこともあり、2組しか生息していません。近年、さまざまな環境変化が原因で、繁殖状況



▲猛禽類の調査風景

は良くありません。生態系の頂点であるイヌワシは、環境の健全性・多様性のバロメーターであり、その保護は自然環境保護と同義です。私たちの生活は自然の恩恵の上に成り立っており、季節や自然環境の変化を感じ取って生活することが大切です。食べ物を選ぶときに旬を意識するなど、やさしい気持ちで自然環境に接すれば、資源も大切にできます。小さな心掛けが環境保護につながるのです。ぜひ当センターでイヌワシの現状を学んでいただき、環境問題を身近に感じて欲しいと思います。



身近な環境

環境問題と言えば、まず「公害」を思い浮かべますが、法律による規制により、大規模な公害は少なくなりまりました。これに代わり、近年は隣家から

インタビュー

心のふるさと新井田川の会会長

原田清廣氏

環境保護は身近なところから

鳥海山をバックに市内中心部を流れ、堤防を彩る花、冬に飛来する白鳥など四季折々に美しい表情を見せる新井田川。川の水は徐々に汚れ、イトヨなどの魚は姿を消しました。また堤防の草が伸び放題となり、ごみやペットのふんが問題となりました。水辺の環境改



の騒音など市民生活によるものを中心となっています。このほかにも、ごみのポイ捨てや飼い犬のふん害、野良猫、野鳥への餌付けによる住民とのトラブルなど、市民のモラルに関わる事柄が身近な環境問題となっています。

善のため、平成15年「心のふるさと新井田川の会」が発足し、草刈り、ごみ拾い、花の定植、水質調査などの活動を行っています。公共下水道の普及で水質は改善され、川辺のごみも減りました。しかし、まだポイ捨てする人がいます。また風で飛ばされた物が流れてくることもあり、海に流れ出れば漂着ごみになります。環境問題というと大きなことのようにですが、一人ひとりが身近な環境に関心を持ち、行動することが、地球環境の保護につながると思います。



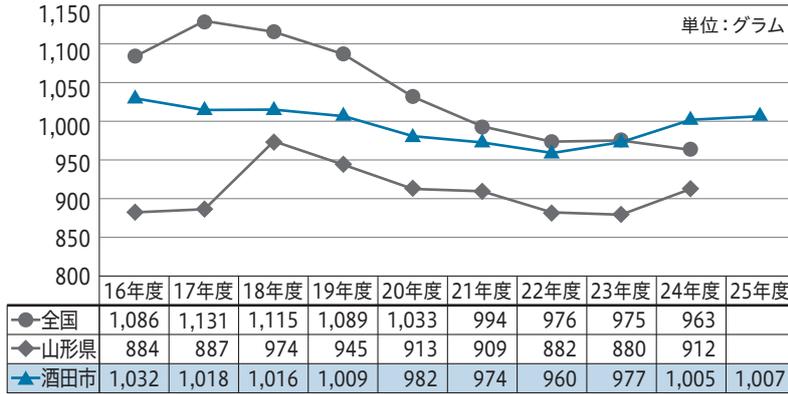
▲河川敷の美化活動(草刈り)の様子

環境問題は、地球規模から身近な環境まで実に幅広いんだ。次のページではいちばん身近な、ごみの問題をチェックしてみよう!



本市のごみ処理量は、人口の減少に伴い、年々減少しています。しかし、市民一人当たりのごみ量は増えていて、全国や県の平均を大きく上回っている状況です。

■1日1人当たりのごみの量



ごみを減らすことは、環境を守るとともに資源やエネルギーを効率的に使用することにもつながります。ごみを減らし、リサイクルを増やす取り組みが求められています。

東北公益文科大学公益学部准教授
酒田市環境審議会専門委員

内藤 悟氏

公益は、

環境問題のキーワード



1960年代〜70年代、高度経済成長期に問題となった公害は、汚染の被害や原因も含めて目に見えやすい環境問題だったといえます。その後、環境関連の法整備がなされ、それに基づく規制などによって、目に見える環境汚染は少なくなりました。環境問題が目に見えにくくなった現在、農業、林業、海洋、景観など、これまで環境問題の枠組みから外れていたさまざまな分野も含めて考える必要があります。

今般、酒田市では新しい環境基本計画を策定しましたが、計画を作って終わりではなく、市民の目に見える形で事業を行い、それを市民に周知することが重要です。積極的に市民の参画を得ながら、市民がいかにか満足するかを意識して環境問題に取り組んでほしい。市民目線の取り組みを推し進

め、その取り組みが、環境分野のみならず市の行政全体に広がることを期待します。

一方、市民の皆さんには、自分や自分の家のことだけでなく、地域に目を向けてほしいと思います。自分の周りに興味を持つことが、環境を考える第一歩。行政に全て任せるとはならず、自らも環境問題への取り組みに参画し、計画の実現を見つめ続けてほしいと思います。

環境を考えることは、個人の利益ではなく全体の利益を考えること。つまり公益の考え方そのものです。市が推進する公益のまちづくりにおいても、課題と情報の共有や協働は必須です。市民と行政が一体となり、環境問題の取り組みが行われるよう、強く期待します。



具体的に何をしたらいいのかわかると分かりますね。



計画を見て、できることから始めよう。ちょっとしたことから行動に移すことが大切なんだね。

環境問題は、一人ひとりの取り組みがとても大切なんだ。酒田市では、環境問題や今後の取り組みを「環境基本計画」「ごみ処理基本計画」としてまとめたんだよ。



第2次酒田市環境基本計画 (平成27年度～36年度)

未来につなげよう 酒田の自然・まちなみ・こころ
—全員参加で未来に拓く共生の地域づくり—

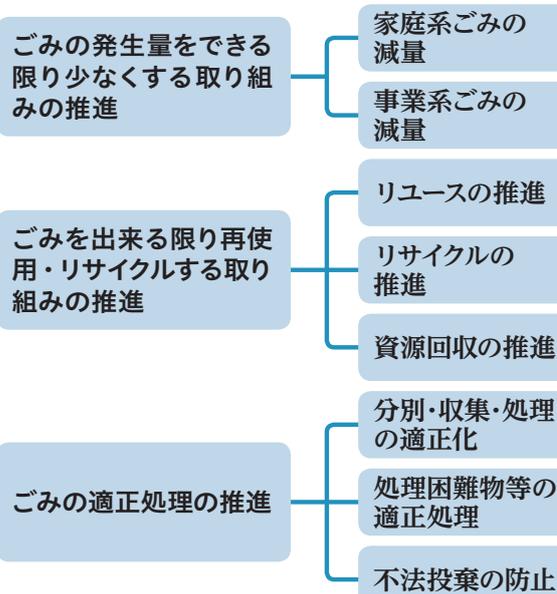
【共通目標】

全員参加 みんなで取り組む
未来につながる環境づくり
(情報提供と環境教育)

- 1、身近な環境に関する目標
安心で快適な美しい地域づくり
(美観保持、騒音・悪臭の防止など)
- 2、資源利用に関する目標
環境負荷の少ない社会へ
(省資源、循環型社会の形成)
- 3、自然環境に関する目標
自然を守り共に生きる
(豊かな自然の保護と活用)
- 4、地球環境に関する目標
二酸化炭素の発生が少ない生活
(地球温暖化対策・再生可能エネルギーの普及推進)

ごみ処理基本計画 (平成27年度～36年度)

みんなで作る循環型社会
—ごみ減量 みんなで進める3R*—



*リデュース (Reduce)、再使用 (Reuse)、再生利用 (Recycle)
※発生抑制 (Reduce)、再使用 (Reuse)、再生利用 (Recycle)

できることから、始めてみよう!



▲夏の暑さを和らげる
緑のカーテンに取り
組めます



▲買い物にはマイバッ
グを持参します



▲トレイなどは店頭回
収へ入れます



▲生ごみはよく水切り
をします



▲地域などの一斉清掃
に参加します



▲身近な自然に触れ、環
境に興味を持ちます

◎他にもできる、こんなこと

- 市の実施する出前講座を活用します (113)
- 助成制度を活用して生ごみの堆肥化に努めます
- 省エネ効果のあるクールビズ・ウォームビズに取り組みます
- 地元の農林水産物に興味を持ちます
- 環境家計簿*に取り組みます

*電気やガスなどの消費量を記録することで、家庭の二酸化炭素排出量などを把握するもの

◆「第2次酒田市環境基本計画」「ごみ処理基本計画」の詳細については、市ホームページに掲載しています。また冊子を市環境衛生課および各総合支所に配置していますので、ぜひ活用してください。